

令和 5（2023）年第 1 回栃木県無人自動運転移動サービス推進協議会 議事概要

1. 開催日時 令和 5 年 6 月 15 日（木）15：00～16：00
2. 会議形式 オンラインによる Web 会議（県庁北別館 203）
3. 出席者 委員 8 人、オブザーバー 3 人（うち代理 1 人）

4. 議事

(1) 足利市における実証実験の実施結果について

資料 1 に基づき、足利市における実証実験の実施結果について説明し、質問やコメントをいただいた。

《委員からの主な意見等》

- ・ 足利市の歩車共存空間などを走行し、車両と街とがマッチした未来を感じさせる内容であった。ルートの設定も良かった。【委員】
- ・ 歩車共存区間について、今後の運用・工夫をどのように考えていくのか。【阪田会長】
 - ⇒ 事業者と住民とのお互いの理解を深めながら、社会が一体となって生活に負担を与えずに共存して進めることが一番だと考える。【オブザーバー】
 - ⇒ 地域の理解は大切である。規制に対する理解もいただいて、自動運転バスが安全に運行できるようにしていきたい。【事務局】
- ・ 大きなトラブルもなく実験を終えられた。関係者の皆様に感謝申し上げる。乗車率も約 9 割となり、多くの市民、観光客に興味を持っていただいたことを嬉しく思う。幅員が狭い歩車共存空間において、歩行者向けに自動運転バスの接近を知らせる電子掲示板を設置し、接近音も鳴らしたりしたが、実際には歩行者よりも一般車両に起因する手動介入が多かったことが分かった。中橋付近での鉄骨による電波の遮蔽や、駅前ロータリーの路上駐車対策などの新たな課題も見えてきた。実験参加者の意見からは JR 足利駅と東武足利市駅を結ぶルートの必要性を改めて確認できた。今後も得られた結果を踏まえて、自動運転バスの導入に向けて検討していきたい。【足利市】
 - ⇒ 今回のルートはかなり需要の見込まれるルートであったのではないかと。途中下車・乗車など、地域の足として使える姿も想像できた。【阪田会長】
 - ⇒ 「途中乗車の方法を教えて欲しいと来店客から聞かれているがどうしたらよいか」と店舗から県へ問合せがあった。実際に途中下車・乗車のニーズはあったと考えている。【事務局】

(2) 令和 5 年度の実証実験の実施体制について

資料 2 に基づき、令和 5 年度の実証実験の実施体制について説明し、市町ごとに質問やコメントを

いただいた。

1) 日光市における実証実験の実施概要について

《委員からの主な意見等》

- ・ 奥日光では 2018 年から自動運転に関する研究が行われており、今回の実証実験に知見を反映できたらと考えている。9km と非常に長い延長である一方で、一般車両の通行が制限された閉鎖空間であることを考えると、今回の実証にとどまらず、先々の実装を見据えて連携しながら動いていきたい。【委員】

2) 下野市における実証実験の実施概要について

《委員からの主な意見等》

- ・ 下野市は自治医大駅から自治医大病院までというシンプルなルートだが、路線バスが日ごろから走行されているルートでもある。これまでのプロジェクトで得られた知見などを反映し、ABC プロジェクト全体の目標でもある社会実装に向けた取り組みになると考えている。緑ナンバーの取得や運賃の收受を行うとなると、これまでと違った取り組みも必要になる。今運行しているバスと今回の自動運転車両をどのように役割分担するかという実務的な検討課題も出てきている。今回はそういった実務面での検討なども今後の委員会で共有していきたい。【委員】
⇒ 交通事業者に関わっていただいたうえでの実務面での検討検証、ノウハウの蓄積は重要であり、それを共有いただくことで令和7年度の社会実装、さらにそこからの展開も期待できるので、ぜひご協力をお願いしたい。【事務局】
- ・ 自治医大駅を含むルートということで、相談などあれば調整していきたい。計画について随時共有いただきたい。【委員】
⇒ 随時情報共有させていただき、よりよい実験としていきたい。【事務局】

3) 芳賀町における実証実験の実施概要について

《委員からの主な意見等》

- ・ 芳賀工業団地で LRT 運行を予定しており、これに合わせて2次交通となる循環バスも運行することになり、交通環境が大きく変化してくる。課題解決に資する自動運転導入の可能性について連携していきたい。【芳賀町】
⇒ 2次交通バスもあり、面的な輸送ということで、今までと異なる検証項目が増えてくると考えている。【事務局】
⇒ これまでやってきたバスを想定した実証実験から少し足を踏み出して、タクシーの要素も入ってくる実験になると考えている。【阪田会長】
- ・ 芳賀町での実証実験において、予定されているタクシー等の面的輸送への自動運転技術の導入可能性検証については、協会としても非常に興味があるところである。これまで協議会での検証はバスがメインとなっていたが、地域公共交通を担うタクシーにも対象範囲を広げていただいたことは協会としても非常にありがたい。今後遠くない将来タクシーへの自動運転技術の導

入について議論になる日がくると思う。そのためにも結果等については協会として注視して行きたい。【委員】

(3) その他

- ・ 次回の協議会は、7月下旬の開催を予定している。日光市実証実験の具体的な実施概要の協議を予定している。【事務局】

以上